



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月3日

上場取引所 東 名

上場会社名 名糖産業株式会社

コード番号 2207 URL <http://www.meito-sangyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 水谷 彰宏

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長

(氏名) 山崎 潔

TEL 052-521-7111

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	15,670	△3.4	65	△83.6	542	△40.4	89	△79.0
23年3月期第3四半期	16,223	△2.5	400	△54.6	909	△32.0	427	△51.3

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 △522百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 △1,026百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	5.35	—
23年3月期第3四半期	25.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
24年3月期第3四半期	42,590		29,933		69.9
23年3月期	44,230		30,744		69.3

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 29,790百万円 23年3月期 30,650百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	—	—	20.00	20.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

23年3月期期末配当金の内訳 記念配当 2円00銭

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,000	△0.4	200	△64.6	700	△36.1	300	△57.6	17.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期3Q	21,265,000 株	23年3月期	21,265,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

24年3月期3Q	4,454,525 株	23年3月期	4,453,650 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	16,810,910 株	23年3月期3Q	16,812,143 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1.	当四半期決算に関する定性的情報	2
	(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
	(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
	(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2.	サマリー情報（その他）に関する事項	3
	(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
	(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
	(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3.	四半期連結財務諸表	4
	(1) 四半期連結貸借対照表	4
	(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
	四半期連結損益計算書	
	第3四半期連結累計期間	6
	四半期連結包括利益計算書	
	第3四半期連結累計期間	7
	(3) 継続企業の前提に関する注記	8
	(4) セグメント情報等	8
	(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の企業の生産活動は回復傾向にあったものの、タイの洪水被害の影響に加え、国内の雇用や所得の回復が進まないなかで消費マインドは盛り上がり、景気の回復は力強さに欠ける結果となりました。また、欧州の債務危機に収束の見通しが立たないなか、欧米や新興国の景気が減速し、さらに長期化する円高・デフレ傾向に産業空洞化リスクも伴って、景気の下振れが懸念されるようになりました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましても、安全・安心で高品質な商品の提供への取り組みが強く求められる一方、原材料・エネルギーコストが上昇するなかで低価格競争がますます加速するなど、厳しい事業環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上のため品質管理体制の強化に引き続き注力するとともに、お客様のニーズにお応えできる高付加価値商品の提供ならびに精力的な販売促進活動を進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期に比べ3.4%減（下記のチョコレート商品および粉末飲料部門の取引価格変更分を考慮すると0.9%減）の15,670百万円となりました。（食品事業におきまして、取引価格の変更をファミリータイプのチョコレート商品につきましては平成22年9月より、粉末飲料部門のガゼット袋タイプと大缶タイプの商品につきましては平成23年4月よりそれぞれ実施しております。そのため売上高および販売促進費が前年同期の基準で計算した場合よりも減少しております。）営業利益につきましては、事業活動の効率化やコストの削減を図りましたが、原材料価格の上昇および平成22年に稼動しました3工場の減価償却費の負担増などにより、前年同期に比べ83.6%減の65百万円となりました。また、経常利益は前年同期に比べ40.4%減の542百万円となり、四半期純利益につきましては、特別損失に投資有価証券評価損245百万円を計上しました結果、79.0%減の89百万円となりました。

事業分野別の動向は、次のとおりであります。

食品事業

第3四半期連結累計期間におきましては、主力の菓子部門は新商品を投入して営業施策を積極的に展開しましたものの、消費者の節約志向により一段と低価格競争が加速して減収となりました。チョコレート類は、主力ブランドの「アルファベットチョコレート」や新商品の「ぷくぷくたいアソート」などのファミリータイプの商品は堅調に推移しましたが、小袋・小物商品の売上は減少しました。キャンディ類は、受託商品の売上が落ち込み減収となりました。

粉末飲料部門は、分包タイプの「しょうが紅茶」は好調に推移しましたが、主力の「レモンティー」や「ロイヤルミルクティー」などが販売競争激化の影響を受け減収となりました。

また、主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、猛暑でありました前年と比べ自社商品、受託商品ともに苦戦し減収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーは、平成22年の新工場稼動に合わせて、積極的な商品提案や販売促進活動を推進しました結果、主力のパウムクーヘン類やゼリー類の売上が大きく伸びて増収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ3.4%減（上記のチョコレート商品および粉末飲料部門の取引価格変更分を考慮すると0.6%減）の13,839百万円となりました。営業利益につきましては、原材料価格の上昇および平成22年に稼動しました新工場の減価償却費の増加などにより、前年同期に比べ47.4%減の442百万円となりました。

化成品事業

酵素部門につきましては海外を主な市場としており、企業間競争が激化するなか、原子力発電所の事故に伴う海外での風評被害や円高の影響を受けました。その厳しい環境下、市場への積極的な提案・販売促進活動を推進しました結果、脂肪分解酵素「リパーゼ」の売上は増加しましたが、チーズ用凝乳酵素「レンネット」は苦戦を強いられ減収となりました。

また、薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料の「デキストラン」の売上は減少しましたものの、「デキストラン」の誘導体が健闘して増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期に比べ3.3%減の1,536百万円となり、平成22年に稼動しました2工場の減価償却費の負担や円高の影響を受けて9百万円の営業損失となりました。前年同期は78百万円の営業損失でありました。

不動産事業

不動産事業につきましては、連結子会社のプリンスゴルフ株式会社の収益の減少などにより売上高は前年同期に比べ4.4%減の293百万円となり、営業利益は前年同期に比べ6.8%減の143百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ633百万円増加し、9,467百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が325百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2,272百万円減少し、33,122百万円となりました。これは、減価償却などにより有形固定資産が954百万円減少したことや、保有する株式の株価の下落などにより投資有価証券が1,241百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ1,639百万円減少し、42,590百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ434百万円増加し、5,914百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が309百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,262百万円減少し、6,743百万円となりました。これは、長期借入金が641百万円減少したことや、繰延税金負債が599百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ827百万円減少し、12,657百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ811百万円減少し、29,933百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が612百万円減少したことなどによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

原材料価格の高騰は落ち着きを見せ始めたものの、冷え込んだ消費マインドや大幅に進んだ円高など、事業を取り巻く環境は先行き不透明感を増しておりますが、当社グループにおきましては、今後も生産性の向上や事業活動の効率化に努め、収益力の向上に取り組んでまいります。現時点では通期の連結業績予想につきまして、平成23年11月4日に公表いたしました数値を修正しておりません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,864	1,865
受取手形及び売掛金	4,528	4,853
有価証券	298	300
商品及び製品	765	1,030
仕掛品	273	315
原材料及び貯蔵品	609	856
その他	503	255
貸倒引当金	△9	△9
流動資産合計	8,834	9,467
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,863	5,535
機械装置及び運搬具(純額)	5,227	4,582
その他(純額)	3,200	3,218
有形固定資産合計	14,291	13,336
無形固定資産	101	89
投資その他の資産		
投資有価証券	20,262	19,021
その他	808	743
貸倒引当金	△68	△68
投資その他の資産合計	21,002	19,696
固定資産合計	35,395	33,122
資産合計	44,230	42,590

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,066	2,375
短期借入金	610	800
1年内返済予定の長期借入金	826	848
未払法人税等	114	4
返品調整引当金	9	8
その他	1,853	1,877
流動負債合計	5,479	5,914
固定負債		
長期借入金	3,707	3,065
繰延税金負債	1,686	1,086
退職給付引当金	2,118	2,138
役員退職慰労引当金	15	16
その他	479	435
固定負債合計	8,006	6,743
負債合計	13,485	12,657
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,313	1,313
資本剰余金	76	76
利益剰余金	33,909	33,662
自己株式	△8,534	△8,535
株主資本合計	26,764	26,516
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,886	3,274
その他の包括利益累計額合計	3,886	3,274
新株予約権	94	142
純資産合計	30,744	29,933
負債純資産合計	44,230	42,590

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	16,223	15,670
売上原価	10,807	10,945
売上総利益	5,415	4,725
販売費及び一般管理費		
販売促進費	2,116	1,738
運送費及び保管費	828	828
広告宣伝費	57	53
給料手当及び賞与	1,146	1,151
退職給付費用	77	70
役員退職慰勞引当金繰入額	3	5
貸倒引当金繰入額	3	0
減価償却費	81	78
その他	699	732
販売費及び一般管理費合計	5,015	4,659
営業利益	400	65
営業外収益		
受取利息	19	15
受取配当金	465	421
有価証券売却益	70	45
持分法による投資利益	12	47
その他	39	35
営業外収益合計	606	565
営業外費用		
支払利息	27	35
固定資産除売却損	12	27
支払手数料	15	2
為替差損	37	20
その他	4	1
営業外費用合計	97	88
経常利益	909	542
特別利益		
投資有価証券売却益	249	—
特別利益合計	249	—
特別損失		
投資有価証券評価損	377	245
固定資産除売却損	55	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	21	—
特別損失合計	454	245
税金等調整前四半期純利益	704	297
法人税、住民税及び事業税	235	160
法人税等調整額	42	47
法人税等合計	277	207
少数株主損益調整前四半期純利益	427	89
四半期純利益	427	89

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	427	89
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,453	△612
その他の包括利益合計	△1,453	△612
四半期包括利益	△1,026	△522
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,026	△522

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,326	1,589	307	16,223	—	16,223
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	1	1	△1	—
計	14,326	1,589	309	16,224	△1	16,223
セグメント利益又は損失(△)	840	△78	153	916	△515	400

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,839	1,536	293	15,670	—	15,670
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	1	1	△1	—
計	13,839	1,536	295	15,672	△1	15,670
セグメント利益又は損失(△)	442	△9	143	576	△510	65

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。